文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

未来の羅針盤 文部科学省の広報誌

# ミラメク

vol. 1
2023 SPRING

［ミラメクINTERVIEW］
## 10兆円規模の大学ファンドは研究力復活の起爆剤となるか

［ミラメクポイント解説］
## 子供の成長に伴走たくましく学び続ける令和の時代の教師たちの姿
～「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて～

和歌山発！
［ミラメク現場から］
## 博物館をハブとして地域課題を解決
「さわれる文化財レプリカ」&「お身代わり仏像」PROJECT

ミラメク
INTERVIEW

# 10兆円規模の大学ファンドは研究力復活の起爆剤となるか

**森 晃憲**
（もり あきのり）
文部科学省研究振興局長。1986年文部省入省。大臣官房審議官（高等教育局及び科学技術政策連携担当）、高等教育局私学部長などを経て、2022年9月より現職。趣味はプロ野球観戦、旅行。

**2000年代半ば以降、低迷する日本の研究力。**
**この課題を解決する可能性を秘める「国際卓越研究大学法」が昨年11月に施行されました。**
**公募は今年3月で締め切られ、4月から今秋にかけて段階的に大学が絞り込まれます。**
**研究振興局・森晃憲局長に、この制度にかける思いを聞きました。**

## 圧倒的な資金力の差が日本の大学の困難の一因

**――国際卓越研究大学制度とはなんですか。その目的、事業の背景は？**

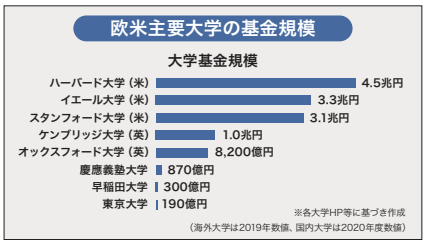
10兆円規模の大学ファンドを創設し、その運用益で国際卓越研究大学として認定された大学に対し、１校あたり年間数百億円の規模で支援する仕組みです。研究環境の充実や優秀な人材の獲得を促すことで、諸外国のトップレベルの研究大学に伍する研究大学の実現を目指しています。

日本の大学は、論文の質、量ともに低調で、世界のトップ大学から大きく水をあけられていると指摘されています。もちろん、日本の大学も日々努力されていますが、諸外国に比べ、圧倒的に研究費その他の資金が不足しており、そのために相対的に順位を下げているのです。

米国のハーバード大学など成果を上げている大学は、卒業生からの寄附などを原資とし数兆円規模の基金を独自に持っています。豊富な資金力を活かして研究成果を上げ、それが人を惹きつける、という好循環を作っているのです。日本の大学も独自の基金を作っていけるよう支援したい。大学ファンドの創設はそのためでもあります。

**――10兆円を投じ、運用益で大学を支援するという発想は大胆ですね。**

例えば、米国では、アイビーリーグのような歴史のある私立大学だけでなく、州立大学やリベラルアーツカレッジも潤沢な大学独自基金を有し、高等教育機関の多様性や層の厚みをもたらしています。特に、トップレベルの研究大学では、数兆円規模の独自基金の運用益を活用し、研究基盤や若手研究者への投資を充実しており、我が国の大学の研究力が相対的に低下する一因となっています。




このような資金力の差を、我が国の各大学の力のみで直ちに解消することは困難ですので、今般、国の資金を活用して大学ファンドを創設し、その運用益により、大学の研究基盤への長期的・安定的な支援を行うこととしたところです。

大学が自律的な財務運営ができる財政基盤を持つことは重要です。潤沢な資金によって大学の研究活動が活性化し、大学発のベンチャーができるなど、新しいチャレンジによってどんどん成長してもらいたい。大学ファンドをその起爆剤にしていただきたいのです。

## 変革への意思とコミットメントを重視し選定

**――国際卓越研究大学に選ばれるのはどのような大学ですか？　また、選ばれる大学に期待することは？**

ひと言で言うならば、「あの大学なら確かに世界に伍する研究大学だね」と、世界のトップ大学も納得するような大学ですね。世界の公共財として、

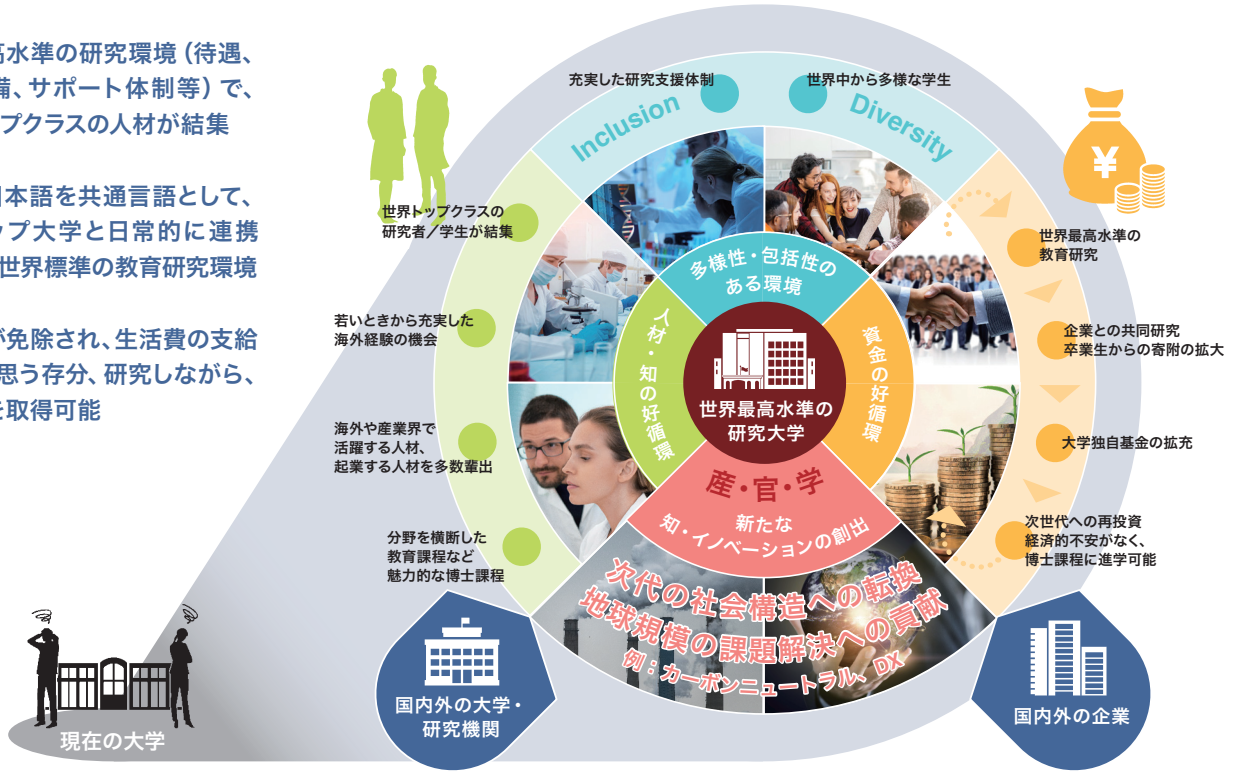
# 国際卓越研究大学の将来像（イメージ）

## 大学ファンドによる支援を通じて、日本の大学が目指す将来の姿

■ 世界最高水準の研究環境（待遇、研究設備、サポート体制等）で、世界トップクラスの人材が結集

■ 英語と日本語を共通言語として、海外トップ大学と日常的に連携している世界標準の教育研究環境

■ 授業料が免除され、生活費の支給も受け、思う存分、研究しながら、博士号を取得可能




世界からも頼られる、世界の大学と共に研究していく、そんな開かれた場であってほしい。

選定は、これまでの実績・蓄積のみで判断するのではなく、変革への意志とコミットメントの提示に基づいて、対話を通して慎重に行います。

国際卓越研究大学には、10年先、20年先、100年先の長期的な視野に立って時空を超えた研究をしていただきたい。もちろん短期的に成果を出していくことも大切ですが、それは企業との共同研究という形で従来どおり進めていただく。大学ファンドでは、世界の情勢を見ながら将来を見据えた研究に取り組める環境を実現したいですね。

もう1つ、国際卓越研究大学に期待したいのは、世界とのネットワーク力です。世界中から優れた研究者や学生を惹きつけ、世界トップレベルの優れた研究成果を出していく、そういった環境を国際卓越研究大学には整備していただきたいです。

一方で、国内の他大学に良い影響を与え、人材の交流や共同研究などを含め、他大学を牽引していく存在になっていただきたい。うちの大学さえよければいいという大学は、国際卓越研究大学にはふさわしくありません。

**――この事業によって地方の大学はどうなるのか、不安の声もあります。**

本事業は、特定の大学だけを引き上げる取組ではありません。国際卓越研究大学を核として、学術ネットワークを形成し、我が国の大学全体の底上げを図っていきたいのです。

また、地方にはその地域のリソースを活かした独自の研究を行っている大学がたくさんあります。そうした個性的な大学には地域の中核となって、輝いていただきたい。全国にある地域中核・特色ある研究大学に対する支援も大きく拡充していきます。

## 日本の大学の可能性を信じ新しい大学像を共に描きたい

**――本誌の発行日には応募は締め切られる予定ですが、現在の応募状況は？**

現時点で具体的な応募状況を申し上げることはできませんが、公募に関する質問を受け付ける窓口には、多くの大学から登録をいただいています。4月に入りましたら申請大学名を公表する予定ですので、もう少しだけお待ちいただければと思います。

**――大学関係者をはじめとする、読者の皆様へのメッセージをお願いします。**

今回の取組は、我々にとってもかなりチャレンジングな試みですが、必ず成功させるという強い気持ちで取り組んでいます。ぜひ大学側にも果敢に挑戦していただきたい。「まだ世界と競い合うには早い」「応募条件のハードルが高い」という声も聞こえてきますが、日本の大学のポテンシャルは決して低くはありません。新しい価値観、新しい大学像を提示していただける大学であれば、どこの大学にも可能性はあります。

我々も、日本の大学の力を最大限伸ばしていけるよう努力していきますので、大学関係者の方々はもちろん、さまざまなステークホルダーの方々にもぜひ、関心を持っていただき、いろいろな形でご支援いただければと思います。

# 子供の成長に伴走
# たくましく学び続ける令和の時代の教師たちの姿
## ～「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて～

2022年12月、日々の学校教育活動を通じて子供たちの成長を支える教師について、
養成・採用・研修等に関する中央教育審議会答申※が取りまとめられました。
Society5.0時代の到来やGIGAスクール構想をはじめとして、
社会や学校現場を取り巻く環境は大きく変わっていますが、教師が公教育の要であることは変わりません。
今回は、この答申（「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について
～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～）について、ポイントを解説します。

### 答申取りまとめまでの経緯

**2021年**

**1月**　中央教育審議会【答申】
「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

**3月**　文部科学大臣【諮問】
「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について
① 教師に求められる資質能力の再定義
② 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成
③ 教員免許の在り方・教員免許更新制の抜本的な見直し
④ 教員養成大学・学部、教職大学院の機能強化・高度化
⑤ 教師を支える環境整備

**11月**　「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会【審議まとめ】
「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて

**2022年**

**5月**　教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律　成立（第208回通常国会）

**10月**　中央教育審議会【答申素案】
「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について ～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～

**11、12月**　パブリックコメント実施

**12月**　中央教育審議会【答申】

### ●改革の大きなポイントは

答申の総論では、今後の改革の方向性として、次の3つの柱が示されています。

1 「新たな教師の学びの姿」の実現
- 教師の学びを子供の学びの相似形ととらえて教師自身の学び（研修観）を転換し、**教師の個別最適・協働的な学びの充実**を通じた、主体的・対話的で深い学びを実現する
- 教師の養成段階も含め、自らの実践を理論に基づいて振り返り、次の実践につなげていく学修を充実させる **「理論と実践の往還」の実現を目指す**

2 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成
- 教師一人ひとりの専門性を高めるとともに、**多様な専門性を有する人材を教職員集団に取り込み**、組織のレジリエンス（変化に対応する力、立ち直る力）を高める
- 組織マネジメントに留意し、**心理的安全性を確保し**、前例や実績のない試みに挑戦する教師を支援できる環境を醸成し、**働き方改革を一層進める**

3 教職志望者の多様化や、教師のライフサイクルの変化を踏まえた育成と、安定的な確保
- 大学の教職課程で、**多様な教職志望者へ対応**するため柔軟性を高める
- 教育委員会においても、様々な形で採用された教師について、**ライフサイクルの変化を踏まえた柔軟な対応**が必要

※ 中央教育審議会とは：教育の振興等に関する重要事項について、文部科学大臣の求め（諮問）に応じて調査審議し、意見を述べる会議体。この意見は答申（とうしん）と呼ばれる。

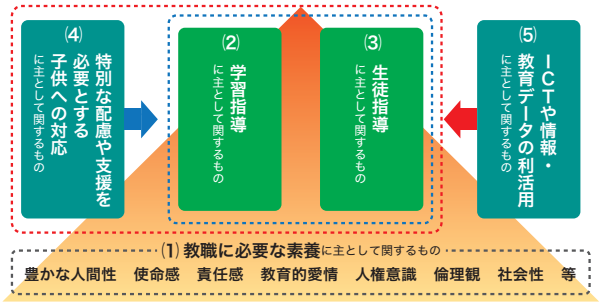
## ●改革の具体的な内容は

### ①「令和の日本型学校教育」を担う教師に求められる資質能力

教師に求められる資質能力について、(1)教職に必要な素養、(2)学習指導、(3)生徒指導、(4)特別な配慮や支援を必要とする子供への対応、(5)ICTや情報・教育データの利活用の5つに構造的に再整理されました（図1）。

また、「理論と実践の往還」を重視する観点から、**教育実習等の在り方**を見直します。例えば、全ての学生が一律に教職課程の終盤に教育実習を実施するのではなく、**早い段階から学校体験活動を活用して学校現場に入り**、大学での理論に関する学びと、現場での実践に関する学びを反復しながら学ぶスタイルなどが提言されています。

図1




※ 上記に関連して、マネジメント、コミュニケーション（ファシリテーションの作用を含む）、連携協働などが横断的な要素として存在

### ② 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成

多様な専門性を有する教師の養成のため、データ活用や心理・語学力などの**強みや専門性を身につける活動と教職課程の学修との両立**や、小学校高学年における教科担任制などに対応した、**新たな教職課程の開設**が示されています。教員採用選考については、**選考試験の早期化・複線回実施**や、**多面的な選考**の実施が示されています。また、多様な人材を教師として取り入れるために、特別免許状の活用促進や、教員資格認定試験の高校「情報」への拡大などが示されています。

さらに、教職員がそれぞれの強みを活かし、働きがいを高めて日々取り組めるよう、**校長等管理職に求められる資質能力の明確化**などが提言されています。

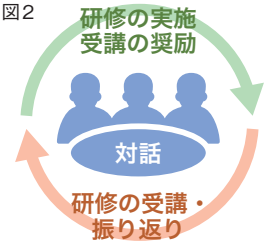
### ③ 教員免許の在り方

教員免許更新制については、2021年11月に、中央教育審議会から、**免許更新制の発展的解消と研修の高度化**に係る制度改正に向けた提言を含む「審議まとめ」が取りまとめられました。第208回通常国会で、これを踏まえた法改正が認められ、これまでの教員免許更新講習の成果を継承しつつ、教師の個別最適・協働的な学びの充実を通じて主体的・対話的で深い学びを実現する、新たな研修制度の実施へと発展的に解消されました。各教師の研修履歴を記録し、その**記録を手掛かりとして、学校管理職等が資質向上に関する指導助言等を行う仕組み**は2023年4月1日から開始されます（図2）。

この仕組みを支えるため、国において、独立行政法人教職員支援機構と連携し、教育委員会や大学・教職大学院、民間等が提供する研修コンテンツを一元的に収集・整理・提供する機能を備えた**「プラットフォーム」と、「研修履歴記録システム」の一体的な構築**を行うことが必要であると指摘されています。

さらに、義務教育9年間を見通した免許のあり方として、**小学校教諭と中学校教諭の両免併有の促進**のための方策が示されています。

図2




### ④ 教員養成大学・学部、教職大学院の在り方

教師の養成の中核を担う、教員養成大学・学部、教職大学院は、**学部と教職大学院との連携・接続を強化**し、教職大学院進学希望者対象コースの設定や、先取り履修を踏まえた教職大学院の在学年限短縮などが提言されています。

また、教育委員会と大学の人事交流や、研修プログラムの連携・協働、さらに、実務家教員の積極的な登用など教員養成に係る理論と実践の往還を重視した人材育成などについて示されています。こうした取組を進めながら、**教員就職率の向上や組織体制の見直しを図る**ことについても言及されています。

### ⑤ 教師を支える環境整備

教師が自らの人間性や創造性を高め、日々の学校教育活動を効果的に行うために必要な環境整備について提言されています。

まず、学びの振り返りを支援する仕組みの構築として、③で紹介した教員研修の高度化を支援する「研修履歴記録システム」および「プラットフォーム」の一体的構築の必要性が示されています。

また、これらを活用する新たな研修制度では、**研修履歴の記録・管理を自己目的化しない意識が必要**であることなどが指摘されています。

さらに、多様な働き方など教師を支える環境整備として、失効・休眠免許保持者の円滑な入職の促進や、働き方改革の一層の推進、勤務実態調査結果を踏まえた教師の処遇の在り方の検討などについて指摘されています。

## ●答申に込められた一番のメッセージ

最後に、中央教育審議会委員の思いがつまった「おわりに」を、一部抜粋して紹介します。

「小中高校生の将来なりたい職業で、教師は引き続き上位に位置している。……子供たちの人生に影響を与え、成長を実感できるという、他では得がたい経験のできる教師という職業に魅力を感じているから、との見方も可能である。」

「今回の答申は、……教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、志望者が増加し、教師自身も志気を高め、誇りを持って働くことができるという将来を実現するための提言である。

環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たし、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている教師が、一人でも多く教壇に立つことを期待する。そして、……誰一人取り残されず、誰もが自分らしさを大切にしながら学ぶことができ、一人一人の可能性が最大限に引き出される教育を実現することを期するものである。」（……は省略の意味）

教師に関する改革は、現場の教師が、未来の担い手である子供たちとしっかり向き合い、また、伴走できることに繋がらなくてはなりません。文部科学省は、この度の答申を踏まえ、現場の皆様とともに、子供たちの学びが最大限充実するための取組を全力で進めてまいります。

## 中央教育審議会（第11期）委員からのメッセージ

本ページ最下段に記載のとおり、審議に参画いただいた委員のうち7名によるメッセージ動画を公開しています。
答申への思いがたくさん込められていますので、ぜひご覧ください。ここではメッセージの一部をご紹介します。

### 中央教育審議会(第11期)会長として 答申に込めたメッセージ

第一生命ホールディングス株式会社
取締役会長
中央教育審議会（第11期）会長
**渡邉 光一郎** 会長

持続可能な未来の担い手として子供たちが育っていくことに、教師が伴走者としてしっかりと向き合う教育を実現しましょう

### 教員養成大学・学部・教職大学院の皆様へ（経営の観点を踏まえて）

兵庫教育大学長
**加治佐 哲也** 委員

大学等の教員養成や教員研修の機能強化や質向上をを図るチャンスと捉えることができます

### 教師の皆様へ

戸田市教育委員会教育長
**戸ヶ崎 勤** 委員

教師冥利に尽きるのは「出藍の誉れ」であると思っています

### 教員養成大学・学部・教職大学院の皆様へ（教職課程における指導の観点を踏まえて）

学習院大学文学部教授・
東京大学名誉教授
**秋田 喜代美** 委員

これからの教職課程について一緒に語り合っていきたいと願っています

### 学校管理職の皆様へ

教職員支援機構理事長
**荒瀬 克己** 委員

子供たちにとってそして教職員にとって豊かな学校を作ることを応援します

### 学生・教育委員会の皆様へ

認定NPO法人 Teach For Japan創業者
Crimson Global Academy日本代表
**松田 悠介** 委員

教師ほどインパクトを目の当たりにできる仕事は意外と世の中では少ない事に気づかされました

### 教育委員会・学生の皆様へ

東京都教育委員会教育長
**浜 佳葉子** 委員

子供たちが憧れるような先生にあふれる学校を皆さんと作っていきたいと思います

審議会委員によるメッセージや、動画による分かりやすい解説はこちらに掲載しています。
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00004.htm

ミラメク現場から　和歌山発！

# 博物館をハブとして地域課題を解決

## 「さわれる文化財レプリカ」&「お身代わり仏像」PROJECT

今年4月に施行される改正博物館法。新しい制度では、博物館がハブとなり、
学校や地域の団体などと連携して地域の活力向上に取り組むことが期待されています。
和歌山県立博物館（以下、博物館と略称）は、和歌山県立和歌山工業高等学校（以下和歌山工業高校と略称）、
和歌山大学等と連携し、地域課題解決に取り組みました。その活動を紹介します。

お身代わり仏像奉納の様子（2019年）

「さわれる文化財レプリカ」&「お身代わり仏像」PROJECTは、和歌山工業高校の生徒が3Dプリンターで博物館所蔵の文化財のレプリカを作成し、視覚に障害がある人も手で触れて文化財を鑑賞することを可能にし、地元の寺社に祀られる仏像の盗難被害防止にも役立っているユニークな試みです。この取組は、内閣府の2014年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰の内閣総理大臣表彰、2020年度第８回プラチナ大賞の優秀賞きらり活動賞を受賞しました。

### ある盲学校教員の悩みが発端

始まりは2010年。発端は、和歌山県立和歌山盲学校の教員のこんなつぶやきでした。

「盲学校の生徒に、郷土の歴史や文化を教える教材がないのです」

そういう状況を知った博物館副館長と学芸員の大河内智之さん（当時。現在は奈良大学文学部文化財学科准教授）は、「博物館として何かできないか」と強く思ったそうです。

盲学校の悩みは、そのまま博物館の課題でもありました。全ての人々に開かれ、物理的及び文化的なアクセスを約束する場であるべき博物館。視覚情報に多くを負っている博物館の展示は、それ自体が視覚に障害のある人にとって大きなハードルです。

「検討の結果、“さわれる文化財レプ

「さわれる文化財レプリカ」に手を伸ばす子供たち

お話を聞いた人

奈良大学文学部文化財学科准教授
大河内智之さん

和歌山県立和歌山工業高等学校
産業デザイン科教諭　児玉幸宗さん

リカ”というアイデアが挙がりました」

従来、博物館の展示では、レプリカを活用することがあります。しかし、非常に高価であることと、触ることを前提とした作りではないことがネックでした。

同じ頃、2007年に新設された和歌山工業高校産業デザイン科では最先端の3Dプリンターなどを導入し、有効な活用法を模索する中、紀州東照宮・和歌祭の行列で着ける仮面を複製し駅駐輪場の防犯に活用したことが地元新聞に掲載され、大河内さんの目に留まります。

「和歌山工業高校の3Dプリンターでレプリカを制作できないだろうか」↗

そうすれば、盲学校の希望に応えられ、3Dプリンターの有効活用にもなります。「ノウハウはありませんでしたが、とにかくやってみようと動き始めたのです」

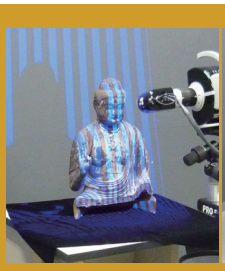
## 「さわれる文化財レプリカ」プロジェクト始動 2010年～

博物館からの提案を受けた和歌山工業高校産業デザイン科では、当時最先端の3Dスキャナーと3Dプリンターを用いた、ABS樹脂製（プラスチック）の文化財レプリカ制作に取り組むことに。課題となった材料費は文化庁の補助事業に採択されたことで解決。

「3Dプリンターで作った文化財レプリカは思った以上のできばえで感動しました」と大河内さん。しかし着彩が思いのほか難しく、なかなかリアルに仕上がりません。どうしたものかと悩んだ末、和歌山大学教育学部の美術専攻の学生の協力を依頼。学生らの手で、風雪に耐え朽ちた仏像の質感そのままに、本物そっくりのレプリカが作れるようになりました。

苦労の末、できあがったレプリカは、博物館内に設置され、来館者は誰でも自由に触ることができます。

来館した県立和歌山盲学校の生徒からは、「説明を聞くだけではわかりにくいけれど、触ったらよくわかった」↙



3Dスキャナーで仏像の計測

実物を見ながら注意深く3Dデータを修正していく

３Dデータ修正のために実物を撮影

着彩は、和歌山大学の学生ボランティアで行う。朽ちた風合いを出すのが難しい

「見えている人の中に入って一緒に文化財の鑑賞を楽しめるのが嬉しい」といった感想があったといいます。

一方、和歌山工業高校の生徒からは、自分たちの作ったレプリカが多くの人に利用されていることへの喜びの声が聞かれました。「生徒たちが社会とのつながりを感じる機会となりました」と大河内さんは取組の手応えを語ります。

## 仏像を救え！「お身代わり仏像」2012年～

視覚に障害のある人も、ない人も、誰もが楽しみながら学べる展示として始まった、「さわれる文化財レプリカ」づくりの試みは、2012年、思いがけない展開を迎えます 。

和歌山県では、2010年春頃から連続60件、仏像172体を含む前代未聞の文化財盗難事件が発生。被害に遭った場所のほとんどが、地域住民で管理する無人の寺社でした。過疎化・高齢化が進み、寺社の維持・管理が難しくなっていることが盗難多発の一因でした。

仏像の窃盗は、単なる物的な被害に留まらず、信仰する地域や人々の歴史と尊厳を奪い、精神的なダメージを与えます。盗まれない対策を直ちに講じる必要がありました。

そこでひらめいたのが、「さわれる文化財レプリカ」の水平展開でした。同様の手法で精巧な仏像のレプリカを制作し、寺社に「お身代わり仏像」として安置。実物は博物館で安全に保管する取組がスタートします。

## 高校の正規授業でお身代わり仏像の制作

「お身代わり仏像」も、和歌山工業高校産業デザイン科の生徒たちが制作。制作は、３年生の「課題研究（毎週金曜日の午後）」の正規授業で行われています。制作に取りかかる前に、博物館学芸員から仏像に関する歴史や由来等のレクチャーがあります。「数百年も昔から地域で守られてきた仏様の背景を知ることで生徒の目の色が変わる」と指導教諭の児玉幸宗先生は言います。普段は見ることのできない貴重な文化財を目の前にした生徒たちは感動し、まごころ込め積極的に制作に励むようになるそう。

できあがったレプリカは、「お身代わり仏像」と称され、現地へ奉納され

花坂観音堂の阿弥陀如来坐像（平安時代）とお身代わり仏像（右）。どちらがレプリカか見分けがつかないほど精巧な仕上がり

極楽寺半跏像（飛鳥時代）。右側がレプリカ

ます。しかし、心配なのは、「レプリカを信仰の対象として受け入れていただけるのか」ということ。そこで行われているのが、制作に携わった高校生・大学生が現地を訪問し、現地の方々とコミュニケーションを取りながら、レプリカを直接手渡し奉納する取組です。地域の方々は、遠路はるばる訪ねてきた生徒たちから制作時の思いや苦労話を聞き、「身代わり像だが、誠心誠意作ってくれた心が伝わってくる」と、喜んで受け入れてくれるそうです。

「奉納を終えた生徒からは、『最初は計測した3Dデータの修正が上手に出来ているか不安だったけど、地域の人たちが喜んでくれたことで、不安を上回るほどの貴重な経験でした。すべての方との出会いに感謝です』『仏像の歴史に興味を持ちました。大きなやりがいと達成感を得ることができ、嬉しかったです』『地域の人たちが喜んでいたのを見て、誇りを持って堂々と素晴らしいことをしているんだと実感しました』と感想を述べています。住職さんや地域の方々からの感謝やねぎらいの言葉に、生徒たちは達成感を感じ、それが自信につながっています。学内だけの授業に留まらず、地域社会への貢献で様々な人と出会える。教育効果は、とても高いですね」と児玉先生。お身代わり仏像（神像）は、2023年3月現在、合計21カ所の寺社に40体が奉納されたそうです。これらの取組で和歌山工業高校産業デザイン科は、総務省の2022年度「ふるさとづくり大賞　団体表彰」を受賞しました。

## 博物館が核となり、教育現場と地域をつなぐ

「お身代わり仏像」PROJECTは、博物館が核となり、地域と教育機関・協力者をつないで文化財を盗難や災害から守る、和歌山県独自の取組です。

重要なのは、地域課題の解消にあたって、それまで全く接点のなかった高校生や大学生と地域の人々を、博物館がハブとなってつなぎ、それが受け入れられていること。

「10年かけて、なくてはならない県の事業として育ってきています」と振り返る大河内さん。昨年博物館を退職し、後任者にこの事業を引き継ぎました。「今後やるべきことは、博物館がハブとなり、県、学校等が連携して地域課題を解決する仕組みを広く知っていただくことだと思います」

同様のフレームは、取り組み方次第でどの地域でも実現可能だと大河内さん。

今年の４月に施行される改正博物館法では、地域の多様な主体との連携による地域活力の向上への寄与が努力義務として盛り込まれました。昨年夏にICOM（国際博物館会議）で採択された新しい博物館定義においても「Open to the public」、「participation of communities」という文言が加わるなど、より社会や地域に開かれた役割と機能が求められています。

博物館はどのような形で地域に貢献できるのか。あらゆる人々に開かれ、あらゆる人々をつないで連携するネットワークの核としての機能が、今、求められています。

## 和歌山の魅力

豊かな自然と歴史に彩られた名所が盛りだくさんの和歌山県。その魅力の一端をご紹介。

歴史

高野山壇上伽藍（伊都郡高野町）

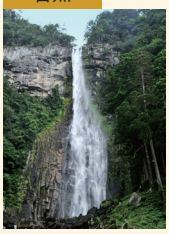
弘法大師空海が高野山を開創した際、最初に造営を始めた場所で、奥之院と並ぶ高野山の聖地。曼荼羅の世界観を具現化したものといわれている。金堂や色鮮やかな朱色の根本大塔など、19の諸堂が建ち並ぶ。

文化

和歌祭（和歌山市）

毎年５月、徳川家康公の命日に合わせて行われる、紀州東照宮の祭礼。元和８年（1622）に始まり、昨年、創始400年の節目を迎えた。紀州東照宮の108段の石段を神輿が駆け下りる「神輿おろし」は圧巻。

自然



那智の滝（東牟婁郡那智勝浦町）

日本三大名瀑の一つ。落差日本一を誇る高さ133mの滝は、流下する水量が毎秒1トンほど。「一の滝」とも呼ばれる。飛瀧神社の御神体でもあり、古くから多くの人びとが参詣した。国指定名勝・世界遺産。

食

めはりずし

塩漬した高菜で大きなおにぎりをくるんだもの。熊野地方の山仕事のお弁当として始まったという。口を大きく開けて食べる時に、目を見張ることからその名がついたとか。現在でも家庭で作られている郷土料理。

**和歌山県立博物館**

1971年創設。和歌山県の文化財を収集・公開する歴史系総合博物館。常設展では、3万年にわたる人びとのくらしをテーマとする。ゆかりの文化財に関する特別展・企画展も開催。和歌山県立近代美術館と隣接する。

〒640-8137
和歌山市吹上1-4-14
TEL：073-436-8670
https://hakubutu.wakayama.jp/

# ミラメクNEWS

2023年1月～3月の文部科学省の主な動きをピックアップしてお伝えします。

## 教育

EDUCATION

Key Number **61万5,351件**

### 学校のいじめ、犯罪行為は直ちに警察へ相談・通報するよう通知発出

2月7日、文部科学省は、「いじめ問題への的確な対応に向けた警察との連携等の徹底について」の通知を全国に発出しました。最新データによると、小中高校等の2021年度いじめ認知件数は過去最多となる61万5,351件。犯罪に相当するいじめ事案については、直ちに警察に相談・通報を行い適切な援助を求めなければならないことや、児童生徒への指導・支援の充実等取組の徹底を求めました。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302904.htm

## 科学技術・学術

SCIENCE AND TECHNOLOGY

Key Number **ナノ＝10億分の1**

### 次世代放射光施設NanoTerasu（ナノテラス）初の一般公開イベント

NanoTerasuは原子や分子などとても小さなナノの世界を観ることができる巨大な顕微鏡として、世界最高レベルの研究施設です。量子科学技術研究開発機構（QST）と地域パートナーの協力によって、東北大学青葉山新キャンパスに建設中で、2024年4月の運用開始を目指しています。3月18日、QST主催の初めての一般公開イベント『NanoTerasuオープンデイ』を開催しました。イベントでは市民の皆さんを実験ホールに案内し、NanoTerasuの概況と展望の説明が行われました。

ナノテラス全景写真
（(一財)光科学イノベーションセンター提供）

https://www.qst.go.jp/site/3gev/41110.html

## 文化

CULTURE

Key Number **令和5年3月27日**

### 明治以来初の中央省庁移転！文化庁が京都で業務開始

3月27日、文化庁は京都に移転し、業務を開始しました。文化庁の京都移転は、「東京一極集中の是正」「日本全国の文化の力による地方創生」「地域の多様な文化の掘り起こしや磨き上げによる文化芸術の振興」といった意義を持つプロジェクトであり、明治以来初の中央省庁の移転です。地域の文化資源を活用した観光振興や地方創生の拡充に向けた対応強化など、京都、そして全国各地の方々と手を携えながら、その役割を果たしてまいります。

https://bunka-iten.kyoto/

## スポーツ

SPORTS

Key Number **3か国の交流・協力**

### 第4回日中韓スポーツ大臣会合を開催

2月9日、第4回日中韓スポーツ大臣会合をオンラインで開催。永岡大臣は、韓国の朴普均文化体育観光部長官、中国の周進強国家体育総局副局長と意見交換を行いました。3大臣は、次世代へのオリンピック・パラリンピック精神の継承、持続可能なスポーツの発展のための連帯、スポーツ交流・協力の拡大にかかる協力強化を3か国で促進していくこと、また2024年に第5回日中韓スポーツ大臣会合を日本で開催することについて合意し、成果文書として「ソウル共同声明」に署名しました。

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop08/list/detail/1409286_00005.htm

# ミラメク三役

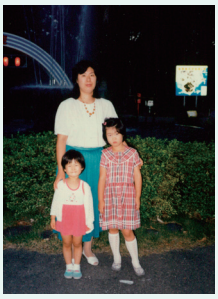
## 文部科学省 政務三役はどんな人!?

このコーナーでは毎回ひとつのテーマに沿って大臣、副大臣、大臣政務官からエピソードを募り、その素顔に迫ります。第1回のテーマは**“思い出の桜”**です。

東京豊島区と新宿区の境、都電荒川線沿いを流れる神田川の桜は、満開になると多くの人が足をとめます。東京の居宅から近く、通勤の自転車で、ペダルを休めて楽しんでいます。朝は春の強い陽射しに和らぎを、夜は涼しい夜風とともに癒しを与えてくれます。自転車通勤は10年になり、千鳥ヶ淵や靖国神社などの名所も寄り道して、満開を楽しんでいます。皆様もぜひ、桜サイクリングを。

副大臣　井出庸生

娘２人の子育てに孤軍奮闘していた時代、近所の仙川沿いの公園を通りかかり、息をのむような満開の桜に目を奪われました。しばらくそこに立ち尽くしてしまい、日頃の育児の大変さを束の間忘れて、ひたすらに桜色の空を見つめていました。一年のうち限られた時間しか堪能できない「非日常」が、「日常」の大変さを一時忘れさせてくれるのかもしれません。こんな貴重な時間をくれる春の「桜」そして「お花見」を大事にしていきたいですね。



大臣　永岡桂子

私の地元、栃木県大田原市の佐良土に所在する光丸山法輪寺の境内に市指定天然記念物「西行桜」があります。保延年間に西行法師が同寺を訪れた折、この枝垂れ桜を見て、「盛りには　などか若葉は今とても　心ひかるる糸桜かな」と詠んだと伝えられています。桜の花の短い盛りに心惹かれ、無常の哀しみに美を覚える、日本人の情緒豊かな感性、日本の伝統文化の根底に流れる「もののあはれ」を、西行法師の歌にみるのです。

副大臣　簗　和生

「左近の桜、右近の橘」京都御所の紫宸殿にある桜の銘が私の名前の由来です。淡い花でちらちらと花吹雪くソメイヨシノの美しさ。一方で、欧州に住んでいる頃に見た桜の花は、色濃く、そして長く咲いていました。何故だろうと考えた結果、人生観や価値観の違いによって好む種類が異なることに気がつきました。桜を通じて、世界の多様性に想いを巡らせると同時に、日本人とは何かと再発見できた思い出の桜です。

大臣政務官　山本左近

宝塚市に住む私にとって阪神競馬場はいつでもそこにある、当たり前の存在。桜の名所としても有名です。毎年４月に開催される桜花賞の当日、競馬場の解放されたエリアで、親戚知人が集まっての賑やかな花見は、新型コロナが流行するまで、30年以上続いた我が家の風物詩。毎年食べきれないほどの料理を用意してくれた母が亡くなり、今年は父と久々に、母の思い出話に花を咲かせたいと思います。

大臣政務官　伊藤孝江

# 編集後記

『ミラメク―未来への羅針盤　文部科学省―』を創刊しました。この名称は、文部科学省のシンボルマークのモチーフである、「未来」を指し示す羅針盤と、英語略称“MEXT”（メクスト）からとりました。

かつては紙による定期刊行物が、数少ない直接発信の手段でしたが、今日では、インターネットを通して即時に情報を届けられるようになりました。AI（人工知能）が自ら情報を学習し要約する力を持つまでになりました。こうした時代の変化を踏まえて、文部科学省では広報紙の役割を見直しました。

情報の「網羅性」や「速報性」は公式ホームページやSNSに任せ、「ミラメク」は季刊とし、デジタルでも紙でも取り扱いやすいPDFとnoteで配信します。一方的な「伝達」ではなく、政策に対する疑問に丁寧にお答えしたり、各分野で取り組まれている事例を紹介したりしながら、国民の皆様、文部科学行政の各分野に関わる方々とのコミュニケーションを深める一つの方法として、育て、進化させていきたいと考えています。ぜひ、皆様のご感想やご意見等をお寄せください。

（文部科学広報官　小野）

大学ファンドは黒船来航にも例えられることがあります。10兆円の大学ファンドの運用益で研究大学を長期的・安定的に支援するという、これまでにない異次元の支援策であり、幕末以上に世界情勢や社会状況が大きく変化する中、国内の研究大学に与えるインパクトは確かに黒船級かもしれません。今回、国際卓越研究大学の制度設計に当たっては、未来の先行投資を担う文部科学省として、諸外国の大学独自基金（Endowment）も参考にしました。基本方針には、大学の持続的成長に向けて、国内外の研究者を惹きつける魅力的な研究環境の整備だけでなく、新たな学問分野や若手研究者への投資など、長期的視野に立った試みにも取り組むことができるよう、例えば、最長25年間の支援や大学独自基金造成を促す仕組みなどを盛り込んでいます。世界最高水準の研究大学への変革を大学ファンドで後押しするとともに、日本全体の研究力向上を牽引する多様な研究大学群の形成に向けて、引き続き、全力で取り組んでいきたいと思います。

（大学研究力強化室長　馬場）

今回紹介した令和４年12月の中教審答申は、GIGAスクール構想の下、一人一台端末の環境が整い、子供たちの学びが新しい学びへと転換する中で、教師について、養成段階を含めた教職生活を通じた能力形成、教職員集団のあり方、それらを支える環境整備について今後の方向性を示したものです。時代環境の変化を見通して、子供たちの新しい学びを描いてみても、それを導く教師に対応力がなければ実現できません。その意味で、これは大変重要な答申と思い、広報室時代に『ミラメク』創刊号で取り上げるべき、と提案しました。それがまさか創刊の時には自分が担当課側に回っているとは・・・想像もしませんでした。教師に関わる改革を一体的に進めるとともに、教職の価値ややりがいを広く発信することも大切にしたいと思います。今回の記事作成に当たっては、広報戦略アドバイザーも含め広報室の皆さんに大変お世話になり、ありがとうございました。

（教育人材政策課長　後藤）

昨年４月に約70年ぶりに大きく改正された博物館法。博物館が多様な主体と連携しながら地域課題の解決や、地域活力の向上に寄与していくことが位置付けられました。様々な文物や美術作品だけでなく、多様な生物種までを集め、保護育成し、調査研究の上で豊かな魅力を伝える。博物館の活動は、高い専門性と学術性を背景としますが、その価値と魅力は地域とつながることで広く深くなり、世代を超えて受け継がれていきます。古いものを集めているイメージがある博物館ですが、実は未来に向けた施設であり活動の場なのです。

地域住民や学校と連携しながら文化を守り、幅広い利用者とその価値を共有しながら未来へと継承していく和歌山県立博物館の取り組みは、これからの博物館の在り方を示す「羅針盤」のひとつとなるものでしょう。『ミラメク』で紹介できたことを嬉しく思っています。

（博物館支援調査官　中尾）

## 目次


**ミラメクINTERVIEW … 2**
10兆円規模の大学ファンドは研究力復活の起爆剤となるか
研究振興局長　森晃憲

**ミラメクポイント解説 … 4**
子供の成長に伴走　たくましく学び続ける令和の時代の教師たちの姿
～「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて～

**ミラメク現場から　… 7**
**和歌山発！**
博物館をハブとして地域課題を解決「さわれる文化財レプリカ」＆「お身代わり仏像」PROJECT

**ミラメクNEWS　… 10**

**ミラメク三役　… 11**


### 読者アンケート

本誌に関するご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマ（施策解説、話を聞きたい人物、魅力的な地域のプロジェクト）等をお寄せください。

https://forms.office.com/r/9DWF89Vgrv


ミラメク -未来の羅針盤 文部科学省-
2023年春号

（発行・著作）
文部科学省大臣官房総務課広報室
〒100-8959
東京都千代田区霞が関3-2-2
TEL:03-5253-4111（代表）
URL:https://www.mext.go.jp/

編集協力:いしぷろ
デザイン:前田淳二
Photographer:松永光希
執筆協力:河田規子
表紙モデル:文部科学省職員のお子さん